

— 北海道医師会認定生涯教育講座 —

(専門医共通講習・医療安全—1単位)

札幌市小児科医会研究会のお知らせ

札幌市小児科医会

【学術部 1. 5. 22】

拝啓 諸先生には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

さて、6月研究会は下記のとおり開催することとなりましたので、ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時：令和元年6月15日（土曜日） 午後5時00分—6時30分

場 所：札幌市医師会館 5階大ホール（中央区大通西19丁目 TEL611-4181）

座 長：北海道立子ども総合医療・療育センター 特定機能周産期母子医療センター
センター長 浅沼 秀臣 先生

演 題： 「安全から組織の質管理へ」

演 者：藤田医科大学病院 医療の質・安全対策部 医療の質管理室
教授 安田 あゆ子 先生

演者紹介；

ご略歴

- 1996年3月 名古屋大学医学部卒業
- 1996年5月 小牧市民病院にてスーパーローテーション研修後、胸部外科勤務
- 2003年6月 ブリガムアンドウイミンス病院（ハーバード大学医学部）にてリサーチフェロー
- 2006年4月 厚生労働省 東海北陸厚生局 臨床研修審査専門官
名古屋医療センター 呼吸器外科併任
- 2011年7月 名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 副部長
- 2014年7月 厚生労働省「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」委員
- 2014年9月 名古屋大学大学院医学系研究科ASUIISHIプロジェクトリーダー
- 2016年6月 藤田医科大学病院 医療の質・安全対策部 医療の質管理室、病院教授

主な役職

日本外科学会 教育委員会、外科医労働環境改善委員会、医療安全管理委員会
日本胸部外科学会、呼吸器外科学会 評議員
医療の質・安全学会、日本医療安全学会 代議員
日本品質管理学会 代議員
日本医療マネジメント学会 評議員
国際医療リスクマネジメント学会 Councilor Board
日本医療機能評価機構 検査・処置・手術安全部会
医療安全全国共同行動 行動目標S技術支援部会

日本の医療において、患者安全が謳われるようになり20年近くが経過している。始まりは、いくつかの医療事故が大きく報道されたことであった。今振り返ってみると、医療が安全を保つための仕掛けを何ら持たず、個々の医療者の技量のみで安全を確保しようとしていたやり方が、社会から問題視されたのだと思う。では、この20年間に患者の安全性は改善したのか？ 残念ながら、答えは一部のみである。病院には安全管理部署ができ、インシデントが収集され、医療現場に潜むリスクは以前より把握できるようになってきた。しかしリスクを避け安全を保証する仕組みは、いまだ存在するとは言い難い。医療事故が社会問題化したことで、特に医師が自身へ及ぶリスクを意識し、患者のリスクへの意識が薄れたこともあって、結果として質保証、質管理の重要性の認識から遠のいてしまったともいえる。

医師は医療システムとどう付き合うべきなのか？ この20年に起こったことは、医療の産業としての構造転換である。この変化についていくために、診療の中心にいる医師は何を変え、何を守るべきなのかを考える必要があるのではないか。我々は、患者安全と質のマネジメントが、新しいシステムの核となると考え、その能力開発の方法を試行錯誤し、明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム（ASUISHI）を展開してきた。そこで中心となる能力は、現在の医療の問題を見つめ、解決していくためのスキルである。組織の中での変化への抵抗や痛みを、仲間とともに乗り越えていくための、問題の分析手法の習得とリーダーシップが医師に求められる。医療のリスクへの気づきを、質保証・質管理体制に変えるやり方を、一人でも多くの医師が身につけ、変化する時代を正視してほしい。

※本研究会は、北海道医師会の承認を得て、日本医師会生涯教育講座1.5単位として開催。

CC：7（医療の質と安全）

次回の予定

日時：2019年7月17日（水）18:30 開始 場所：札幌市医師会館5階ホール

演題：「学校検尿および日常診療中の尿異常と腎疾患（仮題）」

（小児科領域講習iii-1単位 申請中）

演者：北海道大学小児科学教室 助教 岡本 孝之先生